

第4回 大阪湾再生推進会議【報告】

森・川・海のネットワークを通じ美しく親しみやすい大阪湾の創出をめざす都市再生プロジェクト「大阪湾再生」の、平成17年度フォローアップ結果の取りまとめと、次年度の取り組み方針について話し合う『大阪湾再生推進会議』が3月30日神戸市で開催されました。



← 森下都市再生本部事務局次長の挨拶

↑ 藤田副局長の挨拶



↑ NPOと地元小学生らが行うアマモ(海草)移植の水中映像なども紹介

大阪湾再生の取り組みも、平成16年3月の行動計画策定から丸2年が経過し、平成18年度からは目標達成に向けて、キメの細かい取り組みが予定されています。

特に水質目標のクリアが難しいとされる尼崎から堺にかけての湾奥部において、集中的な水環境改善施策が実施され、環境省が策定している第6次水質総量規制との連携も図ってまいります。

また市民、NPO等との市民協働の取り組みを強化し、効果的な情報発信、情報の共有化によるネットワークの強化を図っていくこと等が確認されました。

次年度から新たに「堺市」が参画し、より地域に根ざした取り組みへつながるものと期待されます。(次年度の取り組み方針の詳細は次ページ参照)

【大阪湾再生推進会議構成員】

内閣官房都市再生本部、国土交通省、農林水産省、経済産業省、環境省、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、神戸市、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構

H18年度より堺市が参画

主な意見、発言は以下のとおり

都市再生プロジェクト「海の再生」も東京湾、大阪湾に続き、今年度から伊勢湾や広島湾でも取り組みがはじまったところであり全国各地で取り組みが進んでいる。

なかでも「人と海との関わりの再生」として重要な市民協働の取り組みは、大阪湾が最も活発に実施しており、他地域のめざすべきモデルとして位置づけられている。

(内閣官房 都市再生本部)

第6次水質総量規制の答申が出され、大阪湾の水質はここ数年、改善傾向にあるものの、引き続き汚濁負荷流入削減に向けての努力が必要とされた。大阪湾再生推進会議と密接に連携し、総合的な水環境改善に向けた取り組みにご協力願いたい。

(環境省 閉鎖性水域対策室)

大阪湾湾奥部は水質改善が困難な水域ではあるが、兵庫県においては今年度から「尼崎シーブルー事業」に着手し、次年度より取り組みを本格化するところであり、今後とも推進会議のご助言ならびにご支援を賜りたい。

(兵庫県)

第4回大阪湾再生推進会議

H18年度に実施する主な取り組み

水質改善に向けた取り組み

- 1) 流入負荷量の一層の削減
H18年度実施の**第6次水質総量規制**と連携し、下水道の高度処理化、合流式改善等を一層推進
- 2) **水質汚濁が最も懸念される「尼崎」、「堺」**の閉鎖性海域をテストケースとした水環境、パブリックアクセス改善に向けた先駆的な取り組みを進める

「**尼崎**」・学識経験者、行政、市民団体からなる検討委員会を開催（H17～18年度）

・**運河水路における浅場造成の事業化に着手**

「**堺**」・学識経験者、行政、市民団体からなる検討委員会を開催（H17～19年度）

・**泊地内に「ミニ人工干潟」を設置し、実証実験を開始**

計画から事業化に向けて

- 3) **大阪湾諸港の港湾計画改訂**に関して「大阪湾再生」に関する内容が大きく盛り込まれた（浅場等の延長増、流況改善）

【以下の事業化を検討】

- ・防波堤の再配置による海水交換の促進
- ・緩傾斜護岸、人工干潟、人工海浜の増設

市民との協働の取り組みを拡大

- 4) 「**人の和**」が広がる市民参加型の取組について

ボランティアのダイバーらによる「アマモの移植」プロジェクト

人工干潟による生物調査、コンブ、ワカメの生育実験調査等

河川、海域で実施されている市民参画によるクリーンアップ取り組みの協働的な情報発信を行う。【H18年度】

- ・**ゴミ袋にロゴ等を入れ統一的な取り組みをめざす**

広報活動(情報発信)の強化

- 5) **大阪湾再生ニュース**（仮称）：隔月発行 を実施

大阪湾再生に関する市民参画による取り組み、行政の施策等を紹介

WEB版ならびに学校関係、市民、企業等に対し配布を行う

【H18年度】

- 6) 大阪湾再生推進会議発行の**パンフレット作成** 【H18年度】

新たな参画による体制強化

- 7) 新たな行政機関の参画「**堺市の参画**」 【H18年度】